

別紙 1

会 議 記 録

会議名称	北本市行政改革推進委員会（第3日目）
開会及び 閉会日時	令和元年8月22日（木） 午後3時から5時まで
開催場所	会議室2AB
議長氏名	下垣彰
出席委員 氏 名	秋葉清 金網幾代 白津吉英 諏訪千加子 本多英輔 和田博
欠席委員 氏 名	
説明者の 職 氏 名	こども課 中野了一課長 鈴木直美副課長 西澤隼主事 福祉課 中村稔課長 角田琢磨主幹
事務局職員 職 氏 名	財政課 関口智明課長 矢ノ川直登主査 戸塚千晶主任
会 議 次 第	1 開会 2 議事 事務事業の見直し (1) 0歳児おむつ無料化事業 (2) 金婚式祝賀会事業 (3) 老人クラブ活用費補助事業 3 その他 4 閉会
配布資料	・次第等 ・説明資料

事務局	<p>1 開会 本委員会の開催については、本日全7名の委員全員の出席をいただき、有効に開催されることを報告する。 本日、傍聴の希望はないので、このまま議事に移る。 規則第5条1項で、「委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。」となっている。本委員会については、委員長に進行をお願いします。</p>
委員長	<p>2 議事 それでは、議事に移る。 事務事業の見直し (1) 0歳児おむつ無料化事業 事業の概要、目的、効果等について担当課より説明をお願いします。</p> <p><担当課入室・事務局説明></p>
委員長	<p>それでは、質疑に移る。 委員から質問はあるか。</p>
委員	<p>1, 800万円の事業費はとて大きい。無料のチケットを渡すだけで終わっているのはもったいない。</p>
担当課	<p>0歳児を育てる親の経済的負担の軽減にはなっている。ただ渡すだけではなく、別の事業と組み合わせる検討をしている。</p>
委員	<p>利用者に喜ばれているのは確かである。しかし、これがあるから北本市に住み続ける理由とはならないのではないか。</p>
担当課	<p>ほぼ全員が利用しているので、喜ばれていると思う。しかし定住に繋がっているかはわからない。</p>
委員	<p>事業費が大きくて驚いた。1人あたり、いくら分のおむつなのか。</p>
担当課	<p>出産時、4か月、8か月と3回に分けて。1人あたり4万円程度。</p>
委員	<p>良い事業だが、成果がないのは問題。飯能市は検診とセットで配っている。参考にされたい。</p>
委員	<p>0歳児だけがおむつが必要なわけではない。3歳くらいまでは必要になる。</p>

委員長	子育てに関する支援を0歳児だけでなく、全体的な計画に基づき考えなければならない。そのような計画はあるか。
担当課	ない。単発の事業である。
委員長	質疑を終わりにして、審査に移る。 <担当課 退室>
委員長	委員の皆様の意見を伺う。
委員	子どもの発達に合わせたお金の使い方を検討すべき。 魅力的な子育て支援によって、若い世代の移住・定住のきっかけになるのではないか。
委員	子育て世帯への支援は必要であるが、これは成果が見えない。別の方法を検討してほしい。
委員	予算に対して効果が低い。もっと有効な子育て支援策の検討が必要である。
委員長	それでは、各自チェックシートに記入をし、意見まとめる。 <チェックシート記入・回収>
委員長	それでは意見をまとめると、子育て支援は重要であり、この分野の予算を減らすべきではない。子育て世代への支援施策が、北本市のブランドを高め、市に若い人が集まってくることが、子育て支援政策の狙いである。その事業成果としては、若い世代の移住・定住の増加として捉えるべきである。 ただし今、そのような戦略、シナリオは認められないため、子育て支援戦略・シナリオを明確にする必要がある。その戦略・シナリオでは、出産前～出産～0歳児～保育～教育といった、子どもの成長に合わせた支援の体系的（部門横断的）政策群にするべきである。 現在“おむつ支援事業”の受益者ニーズは高いと思われるので、現時点で縮小・廃止・拡大を論ずべきでないと思われるが、上記の戦略・シナリオの構築により、必要に応じて見直しを図るべきである。 よって、委員会の意見としては、今後の方向性は、「現状維持」とする

	<p>でよいか。</p> <p>【了解】</p>
委員長	<p>では、0歳児おむつ無料化事業についてを終わりにする。</p> <p>(2) 金婚式祝賀会事業</p>
委員長	<p>事業の概要、目的、効果等について担当課より説明をお願いします。</p> <p><担当課入室・事務局説明></p>
委員長	<p>それでは、質疑に移る。 委員から質問はあるか。</p>
委員	<p>結婚50年は、申出なのか。</p>
担当課	<p>戸籍情報は目的外利用できないので、申出による。</p>
委員	<p>独身者、離婚者、死別で祝えない者など様々いる中で、不公平だという意見もあるということだが、どうか。</p>
担当課	<p>一部そういった意見をもらっている。出席者には好評なため続けている。</p>
委員	<p>記念品はやめたのか。</p>
担当課	<p>かつては夫婦茶碗を配っていたが、経費削減のためなくした。現在は、出席者に紅白饅頭と赤飯を出している。欠席者には菓子折りと祝辞である。</p>
委員	<p>社会福祉協議会と共同でやっている経緯は。</p>
担当課	<p>元々は社会福祉協議会単独でやっていた。途中から市が賛同した形。</p>
委員	<p>参加者が少ないが、周知はされているか。自己申告によるものなのでどのように対象者を把握しているのか。</p>
担当課	<p>民生委員が対象者かどうか調査している。</p>

委員	住基情報を使って正確に把握していなのであれば、周知漏れも考えられる。
委員	1日でも北本に住んでいれば対象なのか。
担当課	そのとおり。
委員	欠席者はどのような理由で参加しないのか。
担当課	元々参加するつもりがない人、病気で行けない人、様々理由はあると思う。
委員	昔に比べると規模も小さくなり寂しい感じである。これ以上予算を縮小することができるのか。
担当課	縮小はこれ以上できないと考える。
委員長	質疑を終わりにして、審査に移る。
	<担当課 退室>
委員長	委員の皆様の意見を伺う。
委員	民生委員にかなりの負担を強いている。調査だけでなく、当日も多くの部分で民生委員が活躍している。
委員長	事業費はそれほど大きくない。今回は金額ではなく手間がかかりすぎていることが問題である。
委員	ボランティア頼みでうまくやりくりしている。
委員	記念写真が好評であれば、それだけ残す方法もある。
委員長	それでは、各自チェックシートに記入をし、意見まとめる。
	<チェックシート記入・回収>
委員長	それでは意見をまとめると、記念写真を撮る場として喜ばれており、祝賀としての価値はある。事業経費の金額は小さいが、民生委員も含めた手間が非常にかかり、効率化が必要。ただし、本事業単

	<p>体での効率化は難しいと思われるため、敬老祝い金などの他の事業)との統合等が考えられる。</p> <p>よって、委員会の意見としては、今後の方向性は、「縮小」とするでよいか。</p> <p>【了解】</p>
委員長	<p>では、金婚式祝賀会事業についてを終わりにする。</p> <p>(3) 老人クラブ活用費補助事業</p>
委員長	<p>事業の概要、目的、効果等について担当課より説明をお願いします。</p> <p><担当課入室・事務局説明></p>
委員長	<p>それでは、質疑に移る。</p> <p>委員から質問はあるか。</p>
委員	<p>特別事業費とは何のためか。</p>
担当課	<p>文化センターでお笑い芸人のライブをやっている。</p>
委員	<p>なぜ他市と比べて著しく補助金が多いのか。</p>
担当課	<p>明確な理由はわからない。バスは、かつて市が所有するバスを貸していたという経緯から補助金という形で残っていると思われる。</p>
委員	<p>適正に補助金が使われているか審査はしているか。</p>
担当課	<p>報告書を審査している。使いきれない分の返還がまれにある。</p>
委員	<p>北本市老人クラブ連合会に 1,108,000 円も支出している。人口の多い上尾市でさえも 860,000 円。突出している理由は何か。</p>
担当課	<p>連合会はそれぞれ部会を設けており、そこに振り分けている。独自の事業を活発にやっている。</p>
委員	<p>補助金が高いが、会員は増えていない。組織率も上がらない。なぜか。</p>
担当課	<p>ライフスタイルが多種多様になり、老人クラブに入らなくても、個々で</p>

	色々やっている。また、地域にサロンが増え、そこを活動の場として と考えられる。
委員	バスは何に使っているのか。
担当課	研修旅行である。
委員長	高齢化が進行し、高齢者に必要な扶助費が年々増加する一方であるが、 この事業を続けるに当たりどんな戦略があるのか。
担当課	介護予防として、一万歩運動やとまちゃん体操など市としてやっている が、本事業との関連性はない。
委員	老人クラブは自治会からも補助をもらっている。会員の集金もある。そ んなにお金が必要なのか。
担当課	自治会はないところもある。報告書をみれば返還もあるくらいなので、 ひっ迫はしていないと考える。
委員	連合会は、活動費のほかに、それぞれの事業費も補助しているのか。
担当課	そのとおり。
委員長	質疑を終わりにして、審査に移る。
	<担当課 退室>
委員長	委員の皆様の意見を伺う。
委員	金額の議論もあるが、活動の中身が充実していないといけない。高齢者 が増えているのだから予算をかけるのは悪いことではない。その分活性化 するなら構わない。しかし現実はそうでない。加入していない高齢者に振 り分けた方が良い。
委員	高齢者全体の1割しか加入していない。残りの9割の人をどうするかが 問題である。高齢者全体に向けた事業に振り替える必要があると考える。
委員	老人クラブに入っていない高齢者も含めた、健康寿命を延ばす事 業などに予算をかけてみてはどうか。

委員長	<p>それでは、各自チェックシートに記入をし、意見まとめる。</p> <p><チェックシート記入・回収></p>
委員長	<p>それでは意見をまとめると、本事業は、他市と比較して高額すぎる。バス費用補助は必要な補助か疑問である。会員数増加のため、補助金ではなく中身を活性化させる必要である。会員でない9割の高齢者も含めた高齢者の健康づくり、医療費抑制などの事業に振り替えるべき。</p> <p>よって、委員会の意見としては、今後の方向性は、「縮小」とするでよいか。</p> <p>【了解】</p>
委員長	<p>では、老人クラブ活動費等補助金事業についてを終わりにする。</p> <p>3 その他 4 閉会</p>

議事の内容・概要を記載し、その相違なきを証するためここに署名する。

令和元年 12月 5日 委員長 下田 彰

